

公立病院としての取組実績

【公立病院の役割（新公立病院改革ガイドラインより）】

⇒地域において必要な医療提供体制の確保を図り、その中で公立病院が安定した経営の下でへき地医療・不採算医療や高度・先進医療等を提供する重要な役割を継続的に担う。

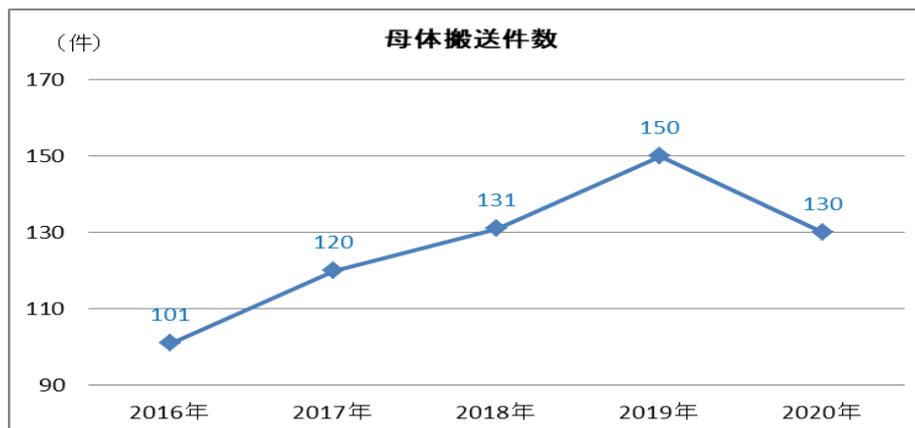
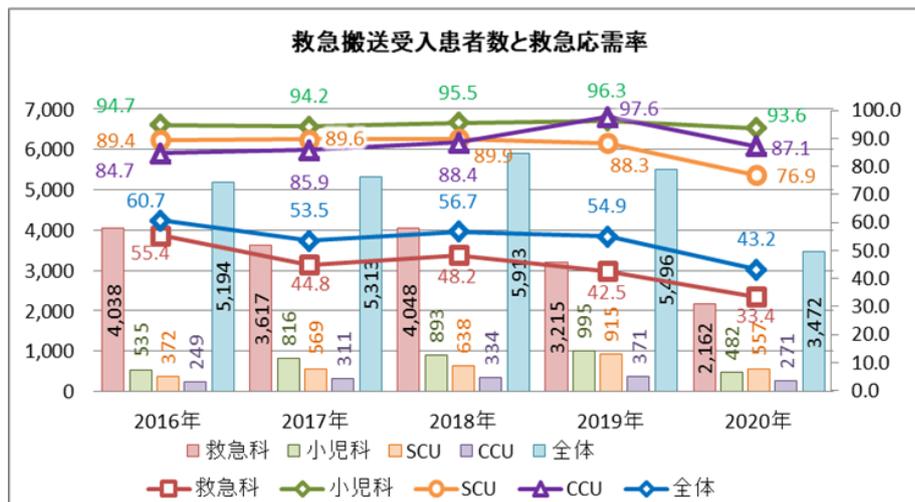
- [取組実績のまとめ]
- 手術件数や救急応需率が低下するなどの課題はあるが、小児・周産期医療やがん診療等を積極的に実施するなど、公立病院としての役割を担ってきた。
 - 当院の医療圏域では、入院・外来患者、さらに救急搬送患者も増加の見通しであり、引き続き、地域から求められる医療の提供に向けた取組が必要。
 - 2020年度は新型コロナに係る補助金により黒字転換したが、例年赤字が続いており、経営の健全化が求められる。

※2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けている。

1. 高度医療・急性期医療・政策医療の主な実績

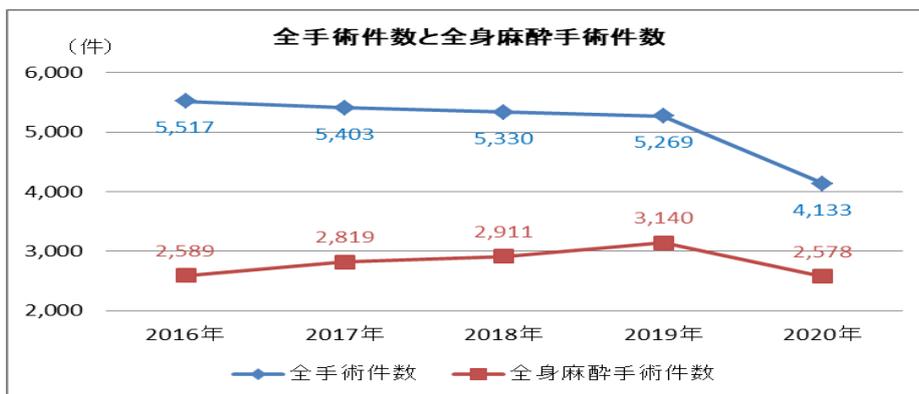
(1) 救急医療、小児・周産期医療

- ・救急搬送受入患者数は 5,500 人前後で、応需率は 55%前後と低い状況。一方、小児科の応需率は、95%前後と高い水準で推移。
- ・母体搬送件数は、毎年 10~20 件増加で推移。



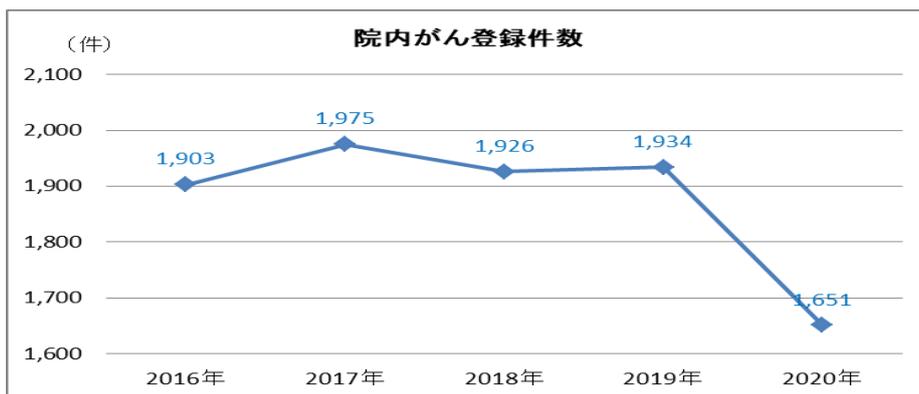
(2) 手術

- ・全手術件数は徐々に減少しているが、全身麻酔手術件数は増加傾向にあり、高度な医療の提供を推進している。

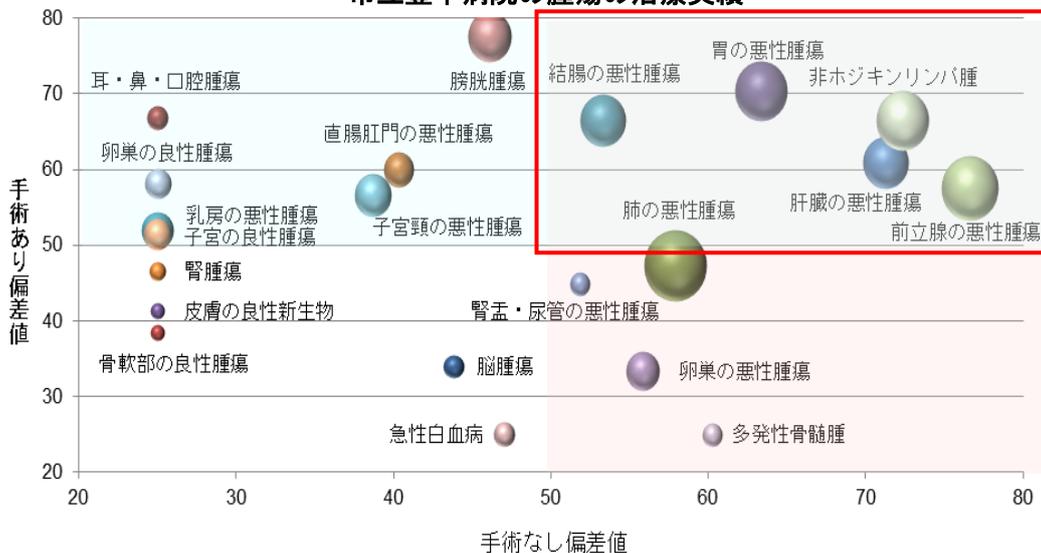


(3) がん診療

- ・地域がん診療連携拠点病院として多くのがん診療を実施（がん登録 1,900~2,000 件で推移）し、消化器系、腎・尿路系、血液系の一部のがん治療実績は全国的にも高水準。また、がんゲノム医療・集学的がん治療を行う市内唯一の病院。



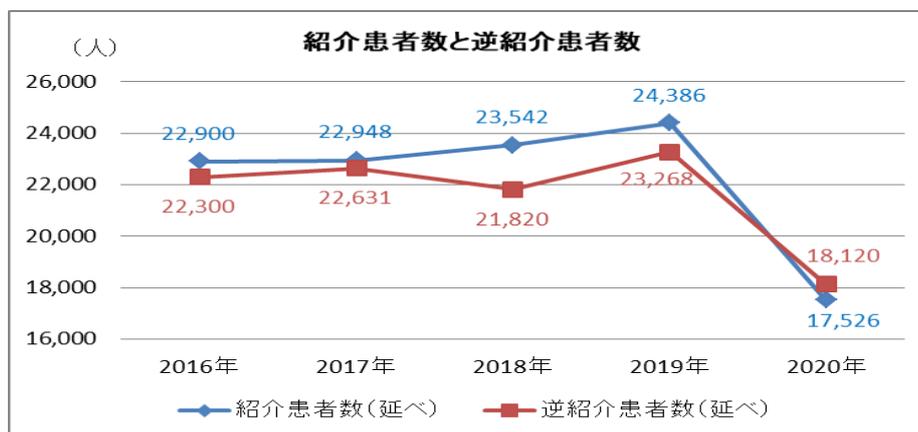
市立豊中病院の腫瘍の治療実績



※円の大きさは症例件数を示す。症例件数 10 件未満は偏差値 25 として表示。

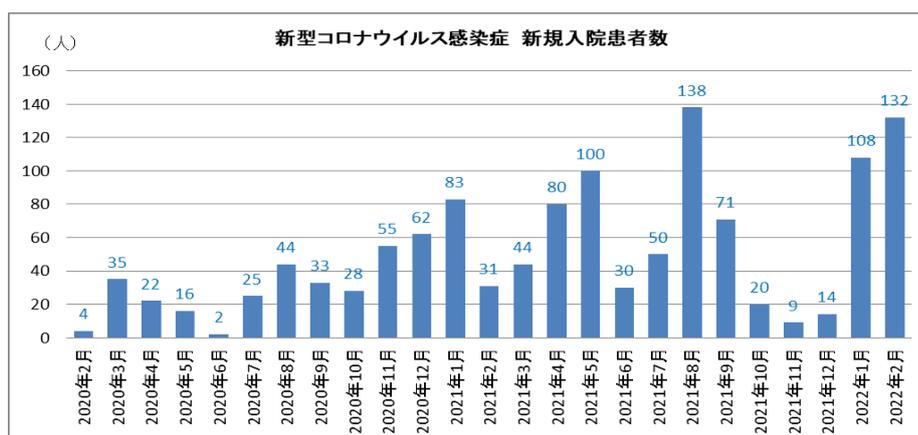
(4) 地域連携

- ・地域医療機関訪問など医療連携の強化に取り組み、紹介患者数、逆紹介患者数ともに増加傾向にある。



(5) 新型コロナウイルス感染症

- ・新型コロナの感染動向に合わせて、合計 1,236 人（2022 年 2 月末現在）のコロナ入院患者を受け入れた。一方、救急や不急の入院・手術などの診療制限が必要となった。



2. 財務状況

- ・2017 年度から 2019 年度にかけ、医業・経常収支比率が低下。2020 年度は、コロナ補助金により経常収支は黒字転換したが、医業収支比率は 80.2%まで低下するなど、経営の健全化が求められる。

